

キョウトウ・アパートメント

多様な人々が共存する都市的な状態をもつ住宅地

Kyodo Apartment

An urban residential area where dwellers and visitors coexist.

木村 優子

KIMURA Yuko

研究目的

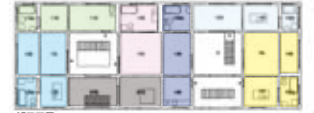
都市では、ある場所に定住している人々、その場所に偶然通りかかった人々など、互いに関係が希薄な人々が空間を共有している状態がみられる。このように、ある場所における人々の集まり方が多様であることが都市の特徴であり、魅力のひとつであるといえる。建物においてこうした状況がみられるのは、大型ショッピングセンターのように多様な用途が隣り合う建築である場合が多いが、これは建物において都市のミschungを作っているに過ぎないが、これを建物の用途で少数の用途でありながら、空間構成が主導することにより、多様な人々が空間を共有し合う状態、即ち〈都市的な状態〉を生み出す方法を構想する。

少数の用途で〈都市的な状態〉が発生している事例

この建物は集合の単位を住戸から、さらにキッチン室、浴室、ベランダに分割し、並べている。各室の幅を揃え、面積を近づける、浴室を日当たりの良い面に配置するなどの操作により、室どうしの主従関係を弱め重要度の度合いをならすことが目論まれていると思われる。さらに室と同規模の外室をエントランスとして設けることで、人々の多様なライフスタイルや住戸ごとに異なる内部/外部の関係を実現している。つまり、少数の用途でありながら空間構成が主導することで、人々の多様な集まり方を可能とする〈都市的な状態〉が発生している事例と理解できる。



西沢立衛 船橋7アパートメント



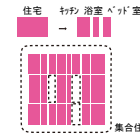
3F平面図



2F平面図



1F平面図



このように、「小さなものが集合した状態」が、そのものの量や集まり方、向きのパターンを複数つくり出し、少数の用途で、〈都市的な状態〉を生むことを可能にすると思われる。そこで住宅を主用途として、本計画を進めていくことにする。

集合することで可能になること

集合住宅には、建物を共有する場合と敷地を共有する場合がある。このときの単位は家であるが、1つの住戸の中で、何人で住むか、またその人どうしの関係の密度はどの程度かによって住み方は多様であると考えられる(図1)。建物を共有する集合住宅の場合、住戸の他にエントランスやテラスなど、外部と接続する場所を図2のように住戸に差をつけることを意識して、建物内に配置していくことで、住戸の単調さをなくす。また、敷地を共有して住む場合は、その敷地が属している地域について共有の範囲を広げて考えることで、住民にも地域の人々にも効果的な方法が生まれる可能性がある(図3)。

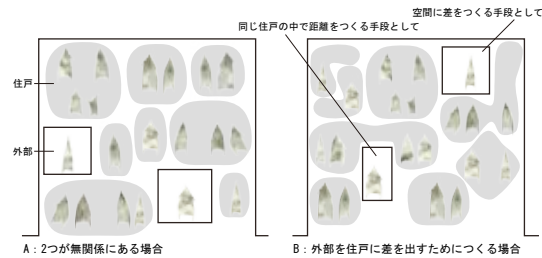


図2. 集合住宅に外部と接続する場所をつくること = 住戸に差をつけること

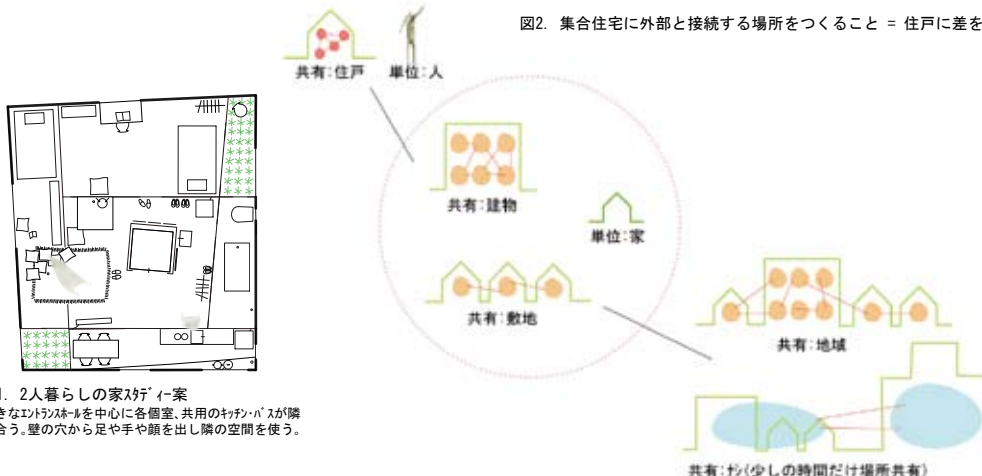


図1. 2人暮らしの家スタイル案

大きなエントランスを中心に各個室、共用のキッチンが隣り合う。壁の穴から足や手や顔を出し隣の空間を使う。

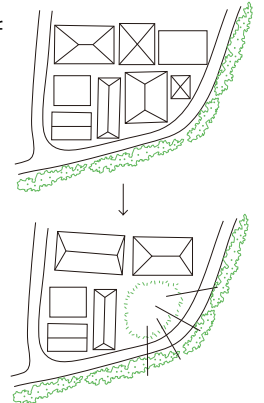
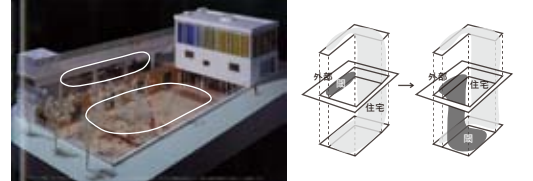


図3. 緑道のある街で集まって住む場合

隣接する緑道と連続するように空地をつくと、住民共有ができる。街の人にとっては視線の抜ける場所ができる。



住宅が都市に対して開くこと
 「住むこと」を街について積極的に関係づける、街に対して「開くこと」を考慮している戸建集合住宅の事例を考察する。これは、303戸の戸建集合住宅として5人の建築家により計画されたものである。住宅に「開」という外部と交流する場が設けられ、提案されている。アプローチは地下レベルに外部テラスをもち、住宅が立体的に「開」に沿っている。今後、外部階段を設けることで、外部テラスも「開」として利用でき、住宅と「開」が立体的に交差する関係が生じる可能性をもつ。このように都市に対して開くように計画された住宅が集まることで、住宅地全体に住民と来訪者の間の様々な関係が生じることが想定できる。

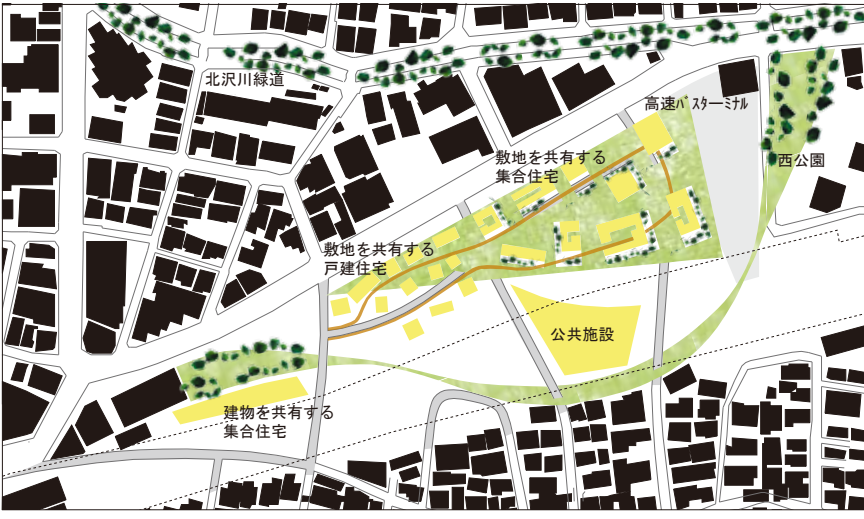


7/17エフ 村田ノブ 伴山人家プロジェクト

設計対象地 駅を高架にする同時につくられた建物
 1: 高井一介・経堂耳鼻咽喉科・長代歯科・松村医院・経堂みどり薬局 2: 経堂まちかど図書館
 3: 浮遊屋五右衛門・4: 4+1+1+1 雑人園ひまわり・雑人園FUIYOSHII・5: 5+1+1 白浮舎



多様な人々が共存する都市的な状態をもつ住宅地
 敷地は小田急小田原線経堂駅周辺とする。この街には駅を挟み2つの商店街と2つの緑道があり、経堂駅はある大学の最寄り駅となっている。また2002年の小田急小田原線の高架化事業により、線路が街を分断する風景が消えたと共に、駅の近くにあった「経堂まちかど図書館」が高架下に移築され、「すずらん商店街」をつなぐ道ができた。しかし、駅から線路の北側大型のスポーツ施設が計画されている。この場所で住宅の集合化を考えると、街の南北をつなぎ、都市の残余地となり得る。高架下と住宅街に必要な空地や緑地を生み出す上で有効であると思われる。そこで、この電車基地の跡地と高架下を含む三角形の部分の本計画の敷地とする。



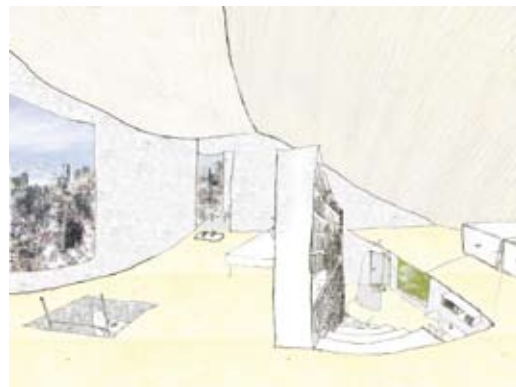
キョウトウアパートメント 建物を共有する集合住宅
 この敷地の南北には、住宅街が広がっているが、南側は線路にぶつかる全ての道が袋小路となっている。そこで敷地内に北を結ぶ道路を設け、これまで鉄道により分断されていた街の動線を回復する。また高架下を利用し公共施設を配置する。この施設へ南面からアプローチをとり、駅から西公園まで高架下を通り抜け、繋ぐ緑道公園をつくる。緑道公園の駅付近は大きな公園とし、集合住宅の北側に配置する。この公園の緑がこの集合住宅の住環境を補助する。また、高架化事業により新設されたショップや移築された「経堂まちかど図書館」のアプローチは駅から高架下を庇代わりに使うようにつくられている。この架の使い方を活かし、さらに本計画地まで人の流れを延長するように、集合住宅を高架上に寄せて配置すると共に、高架下と同じ高さ分がロームを浮かし、ピロティを設けた。底は隣接する公園までのびる。





EV elevator/エレベーター 1-35 house1-35/住宅1-35
 TR trunk room/トランクルーム L living room/リビング
 G garden/庭 臥 bedroom/寝室
 T terrace/テラス SR studyroom/書斎

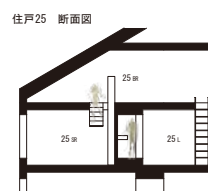
住戸25の上の階から見る。屋根の勾配と下の階と続く本棚が部屋に2種類の性質を出す。



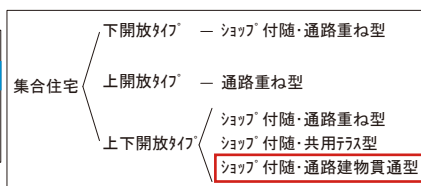
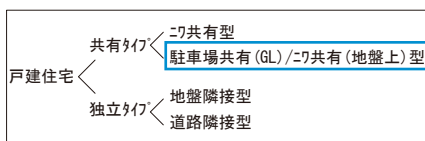
各住戸の空間構成は、5つのエレベーターコアの北面の壁にPSを通し、この壁に平行に、または垂直に細長い水回りゾーンをつくる。これがエントランスから居室へ入るたたきや、住戸13のように部屋の境界となる。住戸16のように2つのエントランスに面する場合2つのエントランスを設ける。3.4階は平面的な関係のみであるが、5階以上になると断面的な関係も生まれ、住戸25は下の階では直接つながらず、上のベッドルームを介してつながる。



外観の様子。細長いヴォリュームの南北を貫通する穴(エントランスホールなど)が開いている。



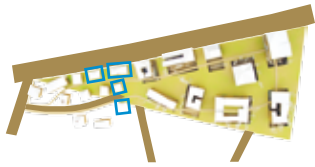
またステイルームの階段部分の吹き抜けを広げ、2層分の本棚をつくる。上方の階には、住戸29のように上下階合わせて3つのエントランスをもつ住戸がある。住戸34は水回りゾーンで完全に住戸と仕切ることができる部屋をもつ。上方の階にSOHOとなり得る。住戸を配置することで、屋根勾配が内部にあらわれる部屋やテラスなどを居住者と居住者以外が積極的に使う場所となる。



キョウトウパトメント敷地を共有する集合住宅

ここは住環境に適さない大通りや、高速バスターミナルと隣接する。そこで、全体に傾斜をもつGLから7000mmの高さの三角形の地盤をかける。この地盤は新たに敷地南北を繋いだ道路やバスターミナルとの境界の壁を覆い、住宅地の駐車場をつくる。地盤の低い方から戸建住宅12軒、集合住宅9棟をつくる。戸建住宅を共有のタイプ、集合住宅を開放のタイプで9グループに分ける。

戸建住宅は、共有タイプの駐車場共有 (GL) / 2戸共有 (地盤上) 型について、集合住宅は上下開放タイプのショップ付随・通路建物貫通型について説明する。



戸建住宅 共有タイプ 駐車場共有 (GL)/2F共有 (地盤上)型

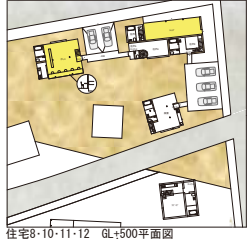
住宅8・10・11・12断面模型
地盤下で3本の道路が交差するので共有の駐車場を設けて地盤下にも7F ロードをつくる。住宅11は2階を地盤上と揃う行スとし歩道をつなぐ共有の2Fができる。



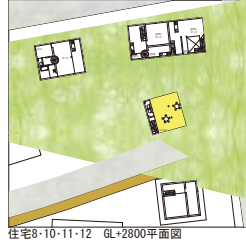
戸建住宅

共有タイプ 駐車場共有 (GL)/2F共有 (地盤上)型

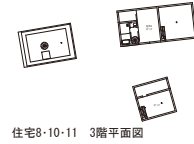
個人の住宅でありながら、庭や駐車場など外部を共有することで、使われていくうちに、同じ建物に住む人どうしの距離よりは遠い、街の人との距離よりは近い距離感が生まれる。



住宅8・10・11・12 GL+500平面図



住宅8・10・11・12 GL+2800平面図



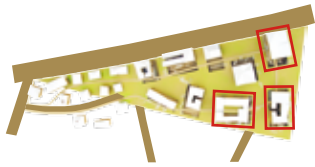
住宅8-10-11 3階平面図



住宅8-10 断面図



住宅11 断面図



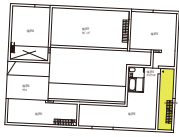
集合住宅 上下開放タイプ ショップ付随・通路建物貫通型



集合住宅

上下開放タイプ ショップ付随・通路建物貫通型

住宅地開発を行うと、そこだけが街から独立してしまう例が多く見られる。そのため、この住宅地では街への開放を意識して、街の人が使う場所、同じ建物に住む人どうしが使う場所を積極的に建物の中につくる。単一になりがちな住戸内に複雑さが生まれ、様々な形や大きさの部屋ができる。左図のショップ付随・通路建物貫通型では、特に建築のヴォリュームが大きいため、建物の中や中庭に街の人が入り込むようになっていく。



集合住宅8 4階平面図 1/150



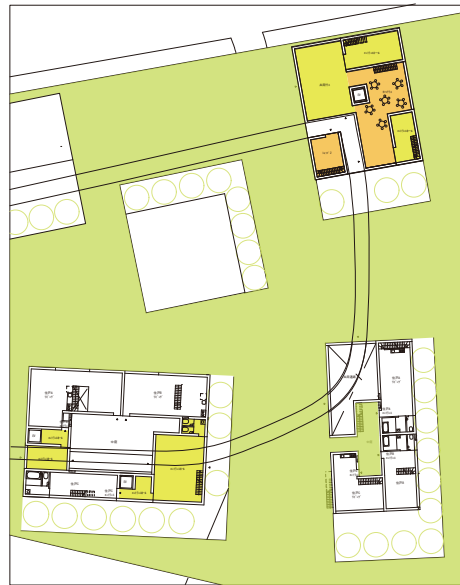
集合住宅8 1階平面図 1/150



集合住宅8 3階平面図 1/150



集合住宅8 断面図 1/150



集合住宅6・住宅8・住宅9 GL+4000平面図

街に対して開かれている ショップやわいなど
住民に対して開かれている 共用バスやエントランスなど



集合住宅8 4階平面図 1/150



集合住宅8 5階平面図 1/150



集合住宅8 1階平面図 1/150



集合住宅8 3階平面図 1/150



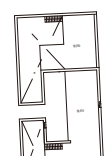
集合住宅8 断面図 1/150



集合住宅9 1階平面図 1/150



集合住宅9 3階平面図 1/150



集合住宅9 4階平面図 1/150



集合住宅9 断面図 1/150



集合住宅8の通路から見る。ショップ吹き抜けの上を通り抜ける。

集合住宅は地盤下に光を落とすヴォイドを各棟設け、GLから屋根までの高さの木を植える。歩道はヴォイドの上に重ねて配置したり、建物の中を貫通させたり、居住者以外も地盤の上を利用できるようにショップなどで上下をつなぐ。